だんだんしょうがい
団体紹介

CATEGORY
災害・犯罪等からの安全・安心

京都府更生保護女性連盟

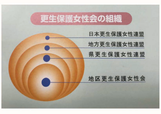
目次

- 「更生」＝「甦る」　再出発する人を導き、助け、再犯・孤立を防ぐ
- **京都府更生保護女性連盟の活動**
  - 更生保護を軸足に活動し、全国がひとつとなって活動を続ける日本唯一の地域ボランティア
  - 京都府更生保護女性連盟の活動
  - ブロック別研究協議会開催
  - 府内の各地区更生保護女性会の活動
- **再犯防止と子ども達の健やかな成長のために**
  - 居場所があってはじめて更生できる。
  - 取り残される人がいない社会を目指す

「更生」＝「甦る」　再出発する人を導き、助け、再犯・孤立を防ぐ

京都府更生保護女性連盟とは、地域社会から非行や犯罪をなくし、過ちに陥った人たちの立ち直りを支援するとともに、次代を担う青少年の健やかな成長を願って、関係機関・団体と連携し、より良い地域づくりに努めている女性ボランティア団体です。

更生保護施設への夕食づくり



京都府更生保護女性連盟は、社会を明るくする運動やフリーペーパーなどを通じて世論の啓発、少人数の住民によるミニ集会の開催、子育て支援、更生保護施設への夕食づくり、クリスマス会、餅つき大会、そうめん流し等、刑務所、少年院等を訪問して面会の奉仕、各地区でも花活けやお誕生日会のお手伝い等進行事に参加協力し、更生の支援に努めています。
また、京都ＹＷＣＡのうららかふぇを毎月隔週火曜日に委託運営を行い、高齢者や児童養護施設の子ども達の支援も行っています。

うららかふぇ

京都府更生保護女性連盟の活動

更生保護を軸足に活動し、全国がひとつとなって活動を続ける日本唯一の地域ボランティア

京都府更生保護女性連盟は、保護観察所などの公的組織、更生保護法人、保護司会などの民間組織と連携し、若者が健全に成長できるよう手助けすることで非行や犯罪を抑制し、過ちを犯してしまった人が更生し社会に復帰できるよう同力する的ボランティア団体です。その歴史は古く、戦前から少年保護などの活動を行っていた女性団体が前身となり、昭和24年に更生保護制度がスタートしたことに伴い、全国に地区更生保護婦人会が結織されていきました。その後、県単位、地方単位での組織化が進み、昭和39年に全国組織である「全国更生保護婦人協議会」が結成されました。のちに「日本更生保護女性連盟」と名称を変え、現在に至ります。結成以来50年、60年の長きにわたり、活動を続けている地区もあります。

公開シンポジウム

新会員研修

京都府更生保護女性連盟の活動

京都府更生保護女性連盟は、京都府内で活動される更生保護女性会の連合組織で、府下の更生保護女性会の活動がより良い活動になるよう、府下の先進事例の共有、ブロック別研究協議会や新会員研修、特別研修会として共催による公開シンポジウムを通じて会員の資質向上に動めなどの活動をしています。

そして、連盟の活動をよりきくの人に知ってもらうため、広報活動などにも力を入れています。機関紙「京更女だより」やフリーペーパー「京更女じゃん」を発行し、連盟や地区会の活動を紹介し広報に努めています。また、子ども食堂などを通して、地域での子育て支援の活動も行っています。

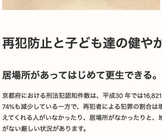
ブロック別研究協議会開催

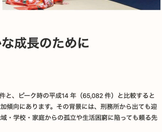
京都府更生保護女性連盟では、例年テーマに沿った講演会で知識を深めたり、意見交換で意識向上をはかることを目的として、京都府内の各ブロックごとに会員が集合するブロック別研究協議会を開催しています。取材にお伺いした11月10日、更生保護施設「鷹親」にて木津川グループの加藤武士代表を講師として迎えた「失敗によりそう～薬物依存の回復支援～」と題した講演を拝聴することができました。

このようなブロック別研究協議会で研修を受けた会員が、学んだことをそれぞれの地区に持ち帰り、それを他の会員に伝えることで、会員の資質向上をはかることも京都府更生保護女性連盟の大きな役割です。

府内の各地区更生保護女性会の活動

京都府更生保護女性連盟では青少年の健やかな成長を願い、就労の支援などを始めとして、多彩な活動を行っています。例えば、西京地区では映画観賞会を行ったり、上京東地区では更生保護施設の寮生や児童養護施設の子ども達を招待し、「お茶会」を開催し、お手形や黄団さんの踊りを堪能する機会を作ったり、下京北地区、連盟研修部が中心となり「おこぜちゃん人形をつくろう」と更生保護のマスコットキャラクターのこぜちゃんを絵下で作るワークショップを行ったり、また会員のアイディアによって季節ごとの行事に合わせたイベントなども開催しています。

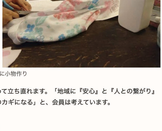




再犯防止と子ども達の健やかな成長のために

居場所があってはじめて更生できる。

京都府における刑法犯認知件数は、平成30年では16,821件と、ピーク時の平成14年（65,082件）と比べると74%も減少していると一方で、再犯者による犯罪の割合は増加傾向にあります。その背景には、刑務所から出ても迎えてくれる人がいなかったり、居場所がなかったりと、地域・学校・家庭からの孤立や生活困窮に陥っても頼る先がない厳しい状況があります。



少女と一緒に小物作り

人は、誰かから自分という存在を認めてもらうことで初めて立ち直れます。「地域に「安心」と「人との繋がり」と「自分の出番」があることが、非行や犯罪を防ぐ一番の力ギになる」と、会員は考えています。

取り残される人がいない社会を目指す

非行や犯罪の多くは、生まづりさを感じたり、家庭での居場所がなく孤独であったりすることがきっかけとなり起きています。もし過ちに陥ってしまっても、その人自身を受け入れ更生を支援する同時に、将来のずどもも達が健やかに育っていけるよう、京都府更生保護女性連盟は活動を進めています。

「街中を歩いている時、目の前から手を振ってくる人がいたんです。よく見てみると、以前イベントなどで何回か出会った、昔更生保護施設にいた方だったんです。とても明るくなっていて、「あぁ、彼ならもうやっていける。支援して良かった。」と心から思えました。」

京都府更生保護女性連盟　Facebook

一般財団法人京都府民総合交流事業団　京都府男女共同参画センター
性別に関係なく個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会…

一般社団法人　京都府トラック協会
京都府トラック協会は、交通安全・環境対策・適正化事業を通…

Copyright © きょうと地域創生府民会議 All rights reserved.

トップへ